ホームページ公開用

胆道癌における増殖シグナル伝達分子発現の免疫組織学的検討

・はじめに

胆道癌は見つかった時に手遅れになりやすく、日本においては膵臓癌に次いで生存率が低い、極めて悪性度の高い癌です。最近の研究で、癌細胞の増殖を高めるシグナル伝達分子や遺伝子異常を標的とした分子標的治療薬が開発されてきていますが、胆道癌では不明な点が多いために、有効な治療薬は見つかっていません。

私たちは、胆道癌の病態解明と新たな治療標的の同定を目指して、胆道癌の増殖シグナル分子機構を解明することが新たな治療法の発見や生命予後の改善につながると考えています。

今回、私たちは胆道癌において増殖シグナル伝達分子の発現を調べ統計学的に解析し、新たな治療法の可能性を探ります。

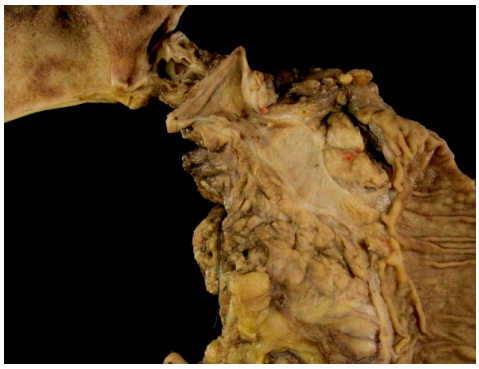

図 1. 手術された胆道癌

・対象

九州大学病院外科（臨床腫瘍外科および消化器・総合外科）において 1996 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までに胆道癌の診断で外科切除術を受けられた方の切除標本のうち、約 100 名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

すでに切除された胆道癌の標本（パラフィン包埋ブロック）の癌部分について増殖シグナルを亢進させる可能性のある受容体蛋白の発現、リン酸化の有無を調べます。調べた蛋白発現の結果と癌の大きさや転移などの因子と比較検討を行います。また、対象となる標本を用いてヒトゲノム・遺伝子解析は行いません。

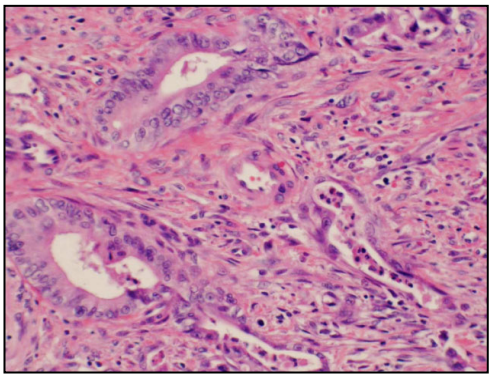

図 2. 胆道癌の組織像（HE 染色）

この研究を行うことで患者さんにとって、日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院形態機能病理学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より 2018 年 6 月 30 日まで

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は胆道癌の発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・利益相反

本研究は大鵬薬品工業株式会社から研究資金の提供をうけて研究します。
尚、研究を実施するにあたり、九州大学ならびに、医学系部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項を遵守します。

・研究機関

九州大学大学院形態機能病理学分野

教授	小田義直（責任者）
准教授	大石善丈
大学院生	服部正見
大学院生	宮崎哲之
大学院生	阿部篤
大学院生	持留直希
大学院生	佐伯　潔
医員	熊谷玲子

連絡先：〒812-8582
福岡市東区馬出 3-1-1
Tel：092-642-6063
担当：小田義直